

暫定一覧表追加記載資産に関するワーキンググループにおける
主な意見について

○「百舌鳥・古市古墳群」について（第1ワーキンググループ）

- ・歴史的に高い評価が得られることは間違いなく、暫定一覧表へ掲載することは特段問題ないと考えられるが、下記の点についてさらに検討が必要である。
 - ①OUVの説明の仕方（特に形態と規模に基づく古墳群の社会的意味の説明、古墳の墳丘周辺の関連施設の有無）、構成資産の取舍選択
 - ②世界遺産として記載された場合の保存管理体制
 - ③推薦する際の名称
 - ④バッファゾーンの扱いについて

○「金と銀の島、佐渡」について（第3ワーキンググループ）

- ・単独で暫定一覧表へ記載することは了承するが、石見銀山との違いを出すには、佐渡の金を強調したほうがよいのではないか。またその際には適切な名称を検討する必要がある。ただし、佐渡は銀にも金が多く含まれており、金を取り出すための銀採掘も行われた点にも着目すべきである。
- ・採掘から製錬を経て貨幣製造までが一貫して鉱山地域で行われているというのは、佐渡以外には類例がほとんどないため、この点も強調すべきである。
- ・イギリスの金本位制移行の裏には日本からの金流出があり、このような世界史的な視点を踏まえた価値評価を行うべきだろう。
- ・欧米人は、資産が人の生活にどのような影響を与えたかというような点に興味がある。周辺の集落を検討する際にはそのような視点を入れるとよいのではないか。
- ・江戸時代の技術と開国後に導入された近代技術が共に残っていることが評価に値する。